

てすべきとなれども信あれば必信も應ずる行ひはあるべく信も行ひ  
 なければ死せしものなりとは示されたり(ヤコウ二十七)信も行ひとは  
 別けていへば二なれどもこれを實際身も試る時は分つべからずたと  
 へば此品は毒なりと信すれば決して口も入れずといふ行ひあり苟も  
 これを口もするを忌まざるは未毒あるを信せざる明證なり實も  
 行ひは信の證據よて行なき信は惡魔の信と名づけらる(ヤコウ二十九)  
 蓋魔鬼も神なしといはず但神あるを知りつゝ神旨を拒絶す故に魔  
 の信は虚信なり是をもて審判は行ひの善惡によりて定めらる是行ひ  
 を審判せらるゝと共信と不信とは自ら此中よりて審判せらるれ  
 ばなり然ども行ひは神の前より人の勲功となりこれが報酬として天國

を興へらるゝよあらざるを知らずばあるべからず天國は神が創世よ  
 りして忠義の僕婢も備へられたる恩賜なれば人か其道を踏み行き實  
 行をもてこれを受くるは取りも直さず賜物を拜受する拜の如し拜受  
 の心なき者よ何ぞ賜物あらん故に行ひなき者よ天國を賜はらずそれ  
 人の行ひはいかほどの大事業世よ見るべきありども神のためは何  
 の功もあらず神は萬事己の意のまゝ行ひ給へば人の功を己がため  
 よ要求せず神より人よ賜はりたる誠命の如きは人の當り踏むべき道  
 路よて神の子たる者よは當然の行ひを行ふのみ人はたゞ神の恩よよ  
 りて救ひを受け神の義子たるを得たるを悦ぶべしよしや神の誠命を  
 行ひ得るとあるも人は自ら無益の僕なり唯行ふべき事を行ひしのみ



人ノ能ハ  
ザル所ハ  
神コレヲ  
能クス

といふべし(ルカ十七)人はたとひ救贖の道をよく歩行し信より信よ  
進みて天路よ登る其労働は我よ属すれどもこれを擇び取りて救ひを  
成就するは神なり況や人が己の労働よ力を得るも神の恩佑をもて能  
くするをや  
イエススハリストスが富人の天國よ入るとの難さを歎かせ給ひし時  
門徒驚きて然らば誰か救ひを得べきと問ひければイエススかれよ目  
を注ぎて是人よは能はざる所なり唯神よは能ざる所なし(マトフェイ十  
九)三十六マルコ十)二十六七と告げ給ひしが人は荏弱よして自ら己の  
救ひを成すの力なく只神全能の力こそこれを成すを得めハリスト  
スの人よは能はざる所なりと宣ひし言の意を察せよ是人の當よなす

べき労働をなさずしてよしといひ給ひしよあらず人のなすべき労働  
は素より力を致すべしされを勤めたる上よも終よなす能はざる所は  
神の能はざるとなき全能の能をもて救はるべしとなりゆゑよハリス  
トスは人の行はざる所は神は能はざるとなしと宣はず人の能はざ  
る所は神は能はざる所なしと宣へり蓋人の善行は完全ならざるもの  
よもせよそれよ労働して汲々たるは信と望みとの實あると著明なれ  
ば神は信と望みとを收めて之を助け救ひ給ふなり而して人の能はざ  
る所は神よは能はざる所なしとの言よよればいかなる大罪人よても  
神よ向ひて熱信と悔改の心を獻すれば救ひを得ざるとなきを見る  
べしいかよとなれば人の能はざる所とはいかなる程度までは人の能



はざる所よていかなる程度までは人の能くする所なりとかかりを附  
 けて示し給はず是誠一神の仁恵の深く且廣さを見るべし蓋人の能不  
 能は人々よして異同あり人の善徳よ於けるも或者は勇毅よ勝れ或者  
 は愛よ勝れ或者は智よ拔んでたりなどいふが如く又罪よ對するも人  
 を各異よして或罪よ對しては淡泊なれども或罪よは濃厚なるあり故  
 り或人は此罪よは克ち易さもかの罪よは克つとを難んず或者はかの  
 罪よ汚れ易さもこの罪よは染まると少なしなど究竟善徳罪惡共よ人  
 を皆異同厚薄の差あり人が神の誠律よ對しては一誠を犯す者は全誠  
 律を犯すなり(ヤコウ二)十の訓は至極の道理なれども誠の條目の一  
 々よ對していへば人の性質よ異同ありて性の近き所は行ひ易く性の

遠き所は行ひ難し能不能は人々各異なるものなれば人の能はざる所  
 よは定點なくこれを萬人一律よ定むべからず故に誠よ等閑よして勤  
 めざるの故よあらず又誠を輕んじて顧みざるの故よあらず實に勉力  
 を極むれども力能はざるが故よよりて神の全能なる救ひの恩寵よ與  
 からんと哀憐するは誠よ已むとを得ざるよて神はかく哀む者の涙  
 を拭ひ給ふなり(マコフエ五)四此事を益 詳よせんばならば聖使徒バ  
 タルのローマ人よ暈す書翰よよりて見るべし云く肉よ由りて弱みたる  
 律法は力なかりしが故に神は其子を罪の肉の形をもて罪のため道  
 し肉よ於て罪を定罪せり律法の稱義が我儕肉よ從ふよあらず神は從  
 ひて行ふ者の中よ成就せんがためなり(ローマ八三四)と此意は律法即ち



誠命は本来人よ罪を犯さしめざるがための設けなれども人は肉より  
 弱く法律の功用を己よ失ふのみならずかへりて律法は人よ罪を  
 知らしめて人の罪を審判する具となりたり是皆人の弱きより律  
 法は期する所の目的と反対の成果を見るよ至り人の不能より律  
 法の能を人の上よ失はしめたり是をもて神全能者は時を待ちて己が  
 子を世よ遣され乃ち罪なき性なる者が罪ある人間の状なる肉をもて  
 生れ世よ在るよ當りて肉身よ一點の罪を近づけず罪をして人は肉  
 体あるをもて罪を犯さざるを得ずと抗言するよ辭なからしめて魔を拉  
 き又ハリストス無罪の肉身を十字架よ釘して人の罪の贖ひの義を神  
 は立てよ惡魔よ人は神よ對して不義なるがゆゑよ我が管領する所な

りといふことを得ざらしめたり且ハリストスは至善よして一點の罪  
 なき身をもて惡魔の手下なる司祭長等より不法不義の裁判を受け十  
 字架よ釘殺せられて惡は益惡なり理と善とは益理なり善なりと判別  
 し魔をして彌己が罪を辭する言なからしめたり是亦ハリストスの肉  
 をもて罪を討殺したるなり皆是吾人人間の能はざる所よて神はハリ  
 ストスをもて成し給ひたり是をもて吾人信者はハリストスよよりて  
 更生し智情意力を擧げて肉よ從ふの生活をせず神よ從ひて生活する  
 者よ律法の義即ち律法の期する目的を成就して罪を免かれしめんと  
 の訓なり蓋神よ從ひて生活し神をもて肉を制御すれば漸く罪より離  
 れてハリストスと体合するを得ん而してハリストスは既よ吾人の



爲す能はざる所を償ふは價值の萬倍なる能をもてせられたり知れよ  
ハリストスの贖ひは人の或一部分の不能を補ひ給ふよわらず乃ち不  
義の人は擧げられて義者となり魔の所轄なる人は神の管轄となり地  
獄の人は天國の人となるを得るなり人の罪はたとひ大なりども神  
の能よりは小なり眞の悔改をもてハリストスに就けば救はれざる者  
あるなし視よハリストスと共に十字架に在りし盜賊の大罪は乍ち榮  
上よ救されて直ちまハリストスと共に天國に升れり(マコフエイ十一)二  
十八九ルガ二十三三十九ヨリ四十三)

千を預けたり是各僕が金を運用する才能に應じ預けらるゝ所の金も  
も亦多少ありき而して後かれらの内にて主人より罰を受けたる者  
見れば才能の短さがゆるゑよわらず其悪しくして惰るよよりて主人の  
歡樂に入るとを得ず抑世界古今億萬の人の内よは才能の小なる者豈  
たよ一千を預けらるゝよ止まらん或は百或は十或は一を預けらるゝ  
者もなきよわらず然とも一を受けたる者は其一をもて他の一を得て  
預けられたる一よ添加せば同く主の歡樂よ入るを得べし蓋善徳よ萬  
種あり人多くは其性の近き所を得ん而して神の國の榮よ入るは皆適  
當を得ざるよなく大善は大榮よ入り小善は小榮よ入らんたゞ其徳の  
神の純全なるよ似て瑕瑾なきを要す然らば各徳其榮を異よするも皆



善美に入らん視よハリストスが一の貧き養婦の二半厘を獻賽函に納  
るを見給ひては此貧き養婦は衆人よりも多く納れたりかれは其乏  
き所より有る全業を納れたりルカ二十一、一ヨリ四と宣ひしよあらず  
や蓋神は其心情を獻るとの多きをもて多しと見給ふ而して賜はる所  
の幸福もこれに應ず是人の善行の功をもて神に益したる所あるが故  
に酬いらるゝよあらずたゞ神の恩恵の雨露を受くるゝ堪ふべき人心  
の沃壤なる者も賜はるなり全く神の恩恵に本づく故に何人も救ひを  
受けざるを恐るゝなかれたゞ篤く信じて行へよ  
人の智識に属する學問技術の進歩は著しく見るべくこれに一步を進  
むればかれゝ又一步を進むるの階梯をなし法學理學文學工學兵學の

教會ハ萬  
世ノ有用

類皆日を逐ひて精密に赴き隨ひて世の面目を改良すると亦著し然る  
に道德實行の一事に至りては智識の進歩に伴ふとあり或は伴はざる  
とあり或は智識が道德を退歩せしむる形勢を顯すとあり本來智識と  
德義とは車の兩輪の如く相待ちて行くべきものなれども世上の實地  
よつぎて見る時は大に然らざるとあり人間社會の大体よりいへば社  
會の智識が進歩すれば道德をもて社會を裝飾す是智識は道德の人よ  
要たることを知るがゆゑ一般に慈善の業を起すとなど少なからず或は  
病院の設け孤兒貧兒の養育又は人權を保護して強弱相凌ぐとなか  
らしむること戦時よは敵味方の別なく病者負傷者を憐むと或は國際上  
最惠を表し互相己を推讓して平和を保ち或は萬國平和同盟を結びて



戦端を預め防がんと勤むる者あるなど皆人間道徳上大に賀すべきこと  
 よて多く讃成せらるゝ事がらなり然れども是等の善事は初めこれを首  
 唱する者は眞實に善事を起す心よりする者あり又何か他の故より  
 て首唱するもわりて一様ならず然しそれらをとを論ずるは暫く指し  
 置きて斯る事業がもはや社會の讃成を廣く受けて實行せらるゝに於  
 ても亦必しも道徳の精髓より起りたる分子のみ集合するよめらず或  
 者は社會の制裁に牽制せられて眞に希望するともわらざるをも止む  
 とを得ず該加する者あり故に外面は行はるゝ大體の上には道徳上著  
 明の行爲なりと見ゆると多きも畢竟社會の制裁又は習俗の潮流より  
 して一般の人心を動す時は大に力ありて中一二の異同者ありども

善き風動よは從はざるを得ざるととなればとよかくも世に利益する  
 とは大なりざる盛世よは眞に賢徳ある人も多し蓋善俗より起す潮流  
 は人の良心を感發するとも大なればなりしかし人が斯る良善の風動  
 中に在りて大社會をなすとも細く一人一人の心魂上より立入りて  
 調ふれば善惡良否の状況區々なれば一旦世の大勢が變りて昨日の善  
 事も今日は世上に勢力を失はんとするよかたむければ是迄善き風動よ  
 廢きたる者も思ひよらざる悪行を働く様よなることおもは是昨日の善  
 事は善なりと知らざるよありざれども今日はもはや智識と道徳と伴  
 はず甚しければ道徳を退けて暴奸佞巧のためよ智識を假してもて自  
 ら誇るよも至る此時は智識と道徳と伴はざるのみならず智識をもて



道徳を排斥する實事となる斯く世の變換よりて一人の人も二人の  
 如く見えて定まりなきは悪しきとながら人の性質は惡なり易く善な  
 り難しといふ點より概見する時は恠むべきとよもあらず蓋人の道徳  
 心は天然固有なれども人よ肉身の慮りがありてこれを支ふるがため  
 道心は微よして發進は甚遅し偶世は賢徳高行の一人あり傍人がかの  
 一人より薰陶感化を受け道心を喚起せられ遂に堅固なる道徳者とな  
 るありされどこれとても暫日の養成をもて成るべきよあらず多くの  
 日月を経て成るものよて其成徳者となるよ及びては治世亂世の別な  
 く一定の道徳履行をもて世に應じ聊も世のためよ移さるゝとなし  
 されど殘念ながら斯る道徳者は古今に餘りあるはどなりといふを得ず

昔も今も同様よ平凡の人は多き方よて世に從ひ浮沈をなし毅然たる  
 志操なき人は十分の九よりも強かるべしと思ふ時は歎かしきとなり  
 是は往世も今世も然るとなれば今後も亦同じとならん但世の文明な  
 るよ從ひて時勢よつれて人倫の關係人間の交際國家の制度世の風俗  
 などば道徳をもて飾られ見るべきもの多くなり就ては世人の心も和  
 らぎ且みやびて世態の全体よりいへば道徳は進歩したりといふべく  
 其内よは美徳の人も多しとは既述べたるが如くなれども亦個人の  
 衷心を擧げて神よ愧なき能はずといふ點よりいへば道徳は未曾で進  
 歩して完全よ至れる者あらずといふも不可なるをなし神よ愧なき能  
 はずといふ心の内よは向いかなる毒惡を含みて居るかと思へば甚危



さまよふぞある然し古今どなく文明どなく野蠻どなく道德は全く地を  
 拂ひて亡びたりといふべき世はあらず何時も道德は人間最上の要  
 義なりといふとは人間一般に認むる所なれども一個人一個人の魂の  
 實地上より見れば斯くも危き道德心なれば殊更にこれを發興せしめ  
 これを間断なく進めて退歩せしめず萬世の人をして常に道德に居ら  
 せむる方法の社會に公認せらるるもの必なきはあらず蓋し人か  
 専ら自己を恃む道德は世末に至るまで完全に至る者あるを得ざれ  
 ばなりそれ國家あれば必保護法なかるべからずこれがため政府の  
 中人あれば道德履行の方法なかるべからずこれがため道德府の設  
 けなくばあるべからず個人の安寧は本より個人の私有なりされど政

府の本分は個人安寧を保護するがため國家に公共なる大法を布く道  
 徳も個人の私有なれども社會に道德を促成する公共の法なければ世  
 の安寧に害あり道德の隆替は實に隱々裏政府と關係する所大なり然  
 ども道德の教養は形而上のとも係るをもて業は政事上とは同じからず  
 政府自らこれが教養に従事するとは能はざる部分に属す故に國家結合  
 上より着眼して世人一般各自に負擔し勉めて道德教養法を認めこれ  
 を講せざるべからざる事がらなりこゝに正教會は神の道德府にてこの  
 府は人の立つるに能はざる府なり蓋し道德を裁制するは天地人の主宰  
 たる者よあらずれば能はず人は皆完全なる道德者よあらずいかよし  
 て人が自己に道德府を立てて道德府主となることを得ん古來世々道德者



と目せらるゝ者ありて人を誘導したるとわれども其人あれば其事行はれ其人亡ぶれば其事乍ち廢れ道德府設立のとなどは誰も思ひ寄りざりしと見ゆイエススハリストス神の子は人となりて自ら完全の道德を履行し己自ら道德主となりて教會を立てこれ眞理を藏めて眞理の無盡藏なる道德府となし世の終りまで此府の滅亡するとなく世の興亡轉變のため移動せらるゝとなく何時も中斷するとなく世末まで人の道德を維持して天に向はしむる方法を備へて府を大磐石なる己の上よ立てられたり視よハリストスが教會を創立し給へる意向と教會とを見れば神の深智の人と異なるを見るべく又神の限りなき愛といふことも見るを得べし宜く深くこれ考察を加へよ教會と

いふ名稱は舊約預言者の言よ於て僅よ見る所なれど外よ此名稱を己の會よ付けたる者會てあるなし(近來世間よ何教會などゝ新よ名つくるを見れどもハリストス教會の教會と名つくるとは比類だよすべからず)偶世の道德者も師弟の間僅よ團結して一小社會をなしゝ者われども其師死すれば門人各其説を異よして二世三世の後よは教義の混亂を來して亡ぶイエススハリストスは全世界よ對して特よ惟一の教會を立て幾地方幾邦國よ散在すとも基を一よして二あるなく時よ誤認を執りて頑守し異端岐教を唱ふる者われども之を質すよは規矩を全教會よ取り衆人をして誤りを受くるとなからしむる方法なり是をもて教會は眞理を誤ると能はず是等の事は今日よ至るまで着々行は



と目せらるゝ者ありて人を誘導したるとあれども其人あれば其事行はれ其人亡ぶれば其事乍ち廢れ道德府設立のとなとは誰も思ひ寄らざりしと見ゆイエススハリストス神の子は人となりて自ら完全の道德を履行し己自ら道德主となりて教會を立てこれ眞理を藏めて眞理の無盡藏なる道德府となし世の終りまで此府の滅亡するとなく世の興亡轉變のためは移動せらるゝとなく何時も中斷するとなく世未まで人の道德を維持して夫に向はしむる方法を備へて府を大磐石なる己の上よ立てられたり視よハリストスが教會を創立し給へる意向と教會とを見れば神の深智の人と異なるを見るべく又神の限りなき愛といふても見るを得べし宜く深くこれ考察を加へよ教會と

いふ名稱は舊約預言者の言よ於て僅よ見る所なれど外よ此名稱を己の會よ付けたる者會てあるなし(近來世間よ何教會など、新よ名つくるを見れどもハリストス教會の教會と名つくるとは比類だよすべからず)偶世の道德者も師弟の間僅よ團結して一小社會をなし、者あれども其師死すれば門人各其説を異よして二世三世の後よは教義の混亂を來して亡ぶイエススハリストスは全世界よ對して特よ惟一の教會を立て幾地方幾邦國よ散在すとも基を一よして二あるなく時よ誤謬を執りて頑守し異端岐教を唱ふる者あれども之を質すよは規矩を全教會よ取り衆人をして誤りを受くるとなからしむる方法なり是をもて教會は眞理を誤ると能はず是等の事は今日よ至るまで着々行は



れて又世末またせいきに至らんと疑ふべくもあらず世は勢力を得る者多し然し  
 惟一ゆいいちをもて全世界ぜんせかいも立ちて名實相伴なじつあひごまひて易はるとなきものはハリス  
 トス教會のみならん是世は主たる神のなし給ふ業もあらずして誰か  
 能くする者あらん道德は人の本分とすべき心行なれども人生れて罪  
 わりこれがため妨げられ法律技術などの如く智識のみをもて掩襲效  
 摸して直も成就する能はずそれ神の興へ給ひたる道德誠法の明なる  
 ものあり人々これに對し信を起し自ら苦脩し自ら新よし聖神の寵佑  
 をもて肉心より神靈心も更生し神と合するを勉めざれば道德の心  
 行を全うして在天の父も就くを得べからずこれがため萬世不易の  
 道德府即ち惟一として二なき教會ありて萬人を統一し神自からこれ

教會ハ今  
 世ニ必用

を指導し地物を天物となし既も失ひたるアダムの地堂も易へて天國  
 も居を賜ふなり抑神ありてこゝも世界あり人あり人あれば神がこれ  
 を導く教あるべく神は初め自ら人面命して教へこれに次ぎて預言  
 者をもてし今は神の子をもて立つる教會をもてす故も教會も聞くは  
 神も聞くなり  
 人皆云ふハリストス教會國は全歐洲と亞米利加等もあらずや然ども  
 かの國も欺罔手段或は不情のともあり強大をもて弱小を凌くな  
 ど徳義も背馳すると亦多し云くかの國々を稱して開明となすは蠻民  
 も比すれば善事善俗多く善き風潮も居り社會の制裁亦人を善も赴か  
 しめ人の善益をなすと多きをもてなり是又ハリストス教と智識の進



歩ほどより産出さんしゅつしたる結果けつこなり然しかども人皆罪ひとみなつみを免まぬれざるは開明かいめいと否いなとを分わかたず罪つみは時ときも開明かいめいも乗のりじ機きを得えて動うごかんとす故ゆゑも開明かいめい人ひとをもハリストス教會けうかいの規き法ぽうと攝理せつりとをもて導みちき且かつ潔きよめざれば罪つみを免まぬかるゝと能あたはず教會けうかいは開明かいめい人ひとも素もとより必用ひつようなり蓋けだし教會けうかいの道徳だうとくは人ひとと人ひととよ於おけるのみならず神かみと人ひととの關係かんけいも於おて大おほなり故ゆゑも聖者せいしやのためも神かみの居宅きたくなる教會けうかいは必用ひつようとして特とくに會崇えんそうせらるゝなりこゝも吾わがが國くにの道徳だうとくのいかゝを見みん風俗ふうぞくの亂みだれ骨肉相害こつにくあいがいし或あるは惡あくをなして巧たくまい法ぽう網あみを漏もるゝをもて耻はぢとせず或あるは淫亂いんらん或あるは貪婪たんらんこれがため遂つひも重おもき生命せいめいを空ひたしうするの類るい道徳だうとくなき舉動きよどうの多おほきと近來きんらい新聞紙しんぶんし上じやう掩おほふべからず同胞國民どうぼうくわんみんの互たがひも憂うれふべきことよはあらずや聊昔いさか昔はよ溯さかのりて陳ちんせん徳川とくせん覇は

府ふの代よに在ありて人倫じんりんの道みちは多おほく儒教じゆきやうも取とり學校がくやうを設たけて家臣かじんの子弟しゆだいを教おしふるも専もつぱら人倫じんりん五常ごじやうの道みちをもてし忠孝ちゆうかうを専もつぱらよすべしとは路傍ろぼうも揭示けいしして臣民しんみんも普あまねく知しらせ他の武藝技術ぶげいぎじゆつの學がくもあるも皆忠孝みなちゆうかうの基もと上じやうも立たつるを旨趣しよしゆとなしたり至精神さいせいしんを人倫じんりんの道みちも注つぎ君臣くんしん皆此意みなこのいを体たいして子弟しゆだいを導みちき君父くんふの重おもきを知しらしめたり諸藩しよはん皆これも效きひて藩士はんしの子弟しゆだいを養やしなひ而しかして士しは農工商のうこうしやうの上うへに在あるをもて下しもを風靡ふうひしたり學校がくやうの子弟しゆだい忠孝ちゆうかうも違たがふとあれば朋友ほうゆう知己ちきと齡としするを得えず自然しぜん藩中はんちゆうより斥しりぞけらるゝ勢いきほとなりて身みを隠かくさゝるを得えず又藩臣またはんしん忠孝ちゆうかうも缺かけたる所ところあれば君主くんしゆより重刑ちゆうけいありて身体生命しんたいせいめいも係かるとわり親戚朋友しんせきほうゆうの耻辱ちよとくまでよかゝりしありさまなり是又當時こゝまたたうじ廉耻れんちを勵はげすの一術いちじゆつなりき各藩かくはん



一様はあらざるも藩校の生徒より登庸して吏員となすなど藩校と  
 藩政藩士と聯絡ありて一種の道德養成の機關をなし而して君と父と  
 は目前は親近してこれに奉事し常に學ぶ所を實行したり藩内は即  
 ち家庭教育に似て常に藩中を養成する所をもて他の藩に對して後れ  
 を取らざらんとを是心かけたり又當時佛教徒のなす所も人心を和ら  
 げ人の争鬪を宥め人々禍福の遭遇を諦めさせ世の益をなしたりされ  
 ば或は勢家の閥門を亂り害を國政にも及さんとしたる形跡は佛法の  
 僧侶も多く聞ゆる所なり然ども僧侶の世俗に益をなしたることある  
 は掩ふべからず概していへば徳川覇府は儒道の人倫五常をもて社會  
 の組織をなして聊參酌を加へたると見ゆ方今右の組織を廢してより

道德の事を專のよして人を訓導する所なく智育德育体育など並べ稱  
 して道德の肝要なりとするをば聞けども今の大小學校は道德府に  
 當つる觀をなす能はず畢竟道德の根本を確乎と据ゑて人心を陶冶す  
 る所あるなし斯く道德を世の浮沈のまゝに任せて上下せしめば今世  
 の子弟は後來いかゞならんとするか恐るべき一點なりされど今世  
 に於ては徳川覇府の狹隘なる規模をもて暫時を糊塗したるが如き教養  
 は時世に可ならず今世に在りて履行すべき道德法は獨己が國民たる  
 とを得るのみならず全世界の民たることを得る者となるを要すもし規  
 模の狹隘なる道德法をもて民を教ふる時は道德は民を思ふする具と  
 なる故に高尚にして空談に流れず近切にして卑劣に落ちず全世界に



惟一なる道徳府即ちハリストス正教會をもて都邑より僻村に至るまで頻々これを置かば其益を目前に見るのみならず萬世一系の帝國は  
升りて天國も永久ならん神よこれを祝せよアミン

正教手引くさ下終

明治卅一年七月八日印刷  
同年同月十四日發行

著者 兼 發行者 佐藤秀六  
東京市神田區駿河臺北甲賀町十三番地

印刷者 岡本文治  
東京市麴町區麴町十丁目四番地

印刷所 岡本活版所  
東京市麴町區麴町十丁目四番地

發行所 正教會編輯局  
東京市神田區駿河臺東紅梅町六番地



正誤

百十	同	同	百三	九	百十七	六十九	五十八	五十七	三十三	三十一	二十一	頁上	
九	七	五	四	一	八	三	八	二	五	四	三	六	行
位	揭	ニ コ タイ ▲	ニ コ タイ ▲		地	夥	類	延	延	延	延	誤	
位	揚	ニ コ タイ ▲	ニ コ タイ ▲		地	夥	類	の	延	延	延	正	
		エ	天				八					脱	

九十	八十八	八十七	七十二	七十一	五十四	二十一	十一	百六十六	百五十二	百五十	百三十二	百一	同	頁
十	五	五	四	四	三	五	六	二	三	十	一	一	十	行
連	安	遠	化	化	雀	雀	雀	傳	機	感	位	位	誤	
連	安	遠	化	化	雀	雀	雀	傳	傳	感	位	位	正	
藏					快			二					脱	







